

地域医療連携だより

やまびこ

発行日：平成 30 年 1 月 発行：高山赤十字病院 高山市天満町3丁目11番地 TEL 0577-32-1111 発行責任者：地域連携課

ふるさとを守る医療

くみみ・はな・のど・くびの健康を守る②

- 新年のごあいさつ
- クリーンルーム運用開始のご案内
- 地域連携講演会のご案内
- 退任のごあいさつ



新年のごあいさつ

高山赤十字病院長
棚 橋 忍

新年あけましておめでとうございます。2018年（平成30年）が、患者さん、医療関係者の皆様にとって良い年でありますよう祈念申し上げます。

高山赤十字病院は平成29年11月に赤十字病院として95周年を迎えました。長きにわたり総合病院としての機能を果たしてこられたのも患者さんをはじめ地域医療に従事されている方々の多年にわたるご支援のお陰と感謝申し上げます。

当院は岐阜県北部の医療の最後の砦として、日々の診療、保健活動、災害・救護医療をこれからも継続して行い、「ふるさとを守る医療」を確保し、5年後の100周年を迎えたいと考えています。

団塊の世代が後期高齢者になる2025年に向けて、医療会改革は待ったなしで進んでおります。国は今の医療保険制度今後も維持するため、急性期病床を減らし、回復期病床を増やすよう誘導し、病院の機能分化、医療・介護連携、在宅医療の推進を図っています。当院は既に回復期リハ病棟、地域包括ケア病棟を稼働させ対応してきましたが、平成30年4月の診療報酬改定が地域医療に配慮したものになるよう願っています。

また、4月より新専門医制度が始まります。現在臨床研修終了者予定者との各専門医領域学会との第一次マッチングが終了していますが、予想通り大都会・都会でのマッチングが多いようです。都会から遠く離れた当院は専門領域の指導医が必ずしもそろっていないため、専門研修を受ける医師が派遣されないことを懸念しています。新臨床研修制度が始まった時のような地域医療崩壊が起こるかもしれないとの不安を払拭できません。

昨年末に2病棟6階に2床ですが、クリーンルームを稼働させました。この地域の白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫等の化学療法を安全に行うための部屋です。当院は地域がん診療連携拠点病院に指定されており、現在は血液のがん、乳がん治療、治療をめざした放射線治療に力を入れています。2人に1人が癌になるとの統計がありますが、癌になっても十分な医療を住みなれた土地で提供できるよう努めてまいります。

今後とも、一世期を超えて当地で医療を確保し、ふるさとを守っていく所存です。職員一同本年も頑張って医療を提供して参ります。本年も今までと同様にご支援をお願い申し上げます。

クリーンルームの運用を開始しました

1 血液疾患について

血液内科は、白血球、赤血球、血小板や凝固の異常を診察します。比較的多い疾患として、白血病、骨髄異形成症候群、悪性リンパ腫や多発性骨髄腫などがあります。

2 クリーンルームについて

急性白血病などで強力な化学療法を受ける患者さんは、白血球が高度に減少するため免疫力が低下します。このような免疫低下状態においては、空中に浮遊するアスペルギルスなどの真菌（かび）による肺炎の危険性が高まります。このような感染症を予防するため、ヘパフィルターを使って空気が清浄化されるように設計された部屋がクリーンルームです。

3 飛驒における治療について

これまで高山赤十字病院における血液疾患の治療は、造血幹細胞移植を除いて行ってきましたが、クリーンルームができたことで、自己や血縁者間の造血幹細胞移植を行えるよう準備中です。

※クリーンルームは、垂直層流方式という換気方法により、頭上の天井から給気された清浄な空気が、足元の側壁下の吸込口より吸い込まれる形で流れており、ベッド上を常にISOクラス5（F.S. 209D相当 クラス100.1m³中に含まれる0.1μm以上の微粒子数が100,000個/m³以下）に保つことができます。



クリーンルームの様子



換気や照明の制御盤



医療用手洗い水装置を整備



ふるさとを守る医療

～みみ・はな・のど・くびの健康を守る②～



安藤診療科部長

■ 睡眠時無呼吸症候群 [SAS]

当科では睡眠時無呼吸症候群（以下SAS）の検査・治療をおこなっています。SASの自覚症状として昼間の眠気や体のだるさなどがあります。強いいびきや睡眠時の無呼吸を指摘されるものの自覚症状が全くない人も多く存在します。

問診や電子スコープなどを用いて睡眠時無呼吸への関与が疑われる部位検索、自宅のできる簡易検査、1泊入院による精密検査などをおこなっています。

SASの程度によって治療方針も変わってきます。無呼吸が軽度から中等度の一部の患者に対しては、鼻やのどの手術治療、口腔内装置（マウスピース）、生活指導などを中心におこなっています。SASが中等度の一部から重度の患者にはCPAP（持続気道陽圧）による通院加療をおこなっています。治療が安定してくればかかりつけ医への紹介も行っています。

SASは治療に抵抗する高血圧や、心疾患や脳血管疾患などにも悪影響を与えるといわれています。昼間の眠気などの自覚症状があるかたはもちろん、自覚症状がない場合でも強いいびきや睡眠時の無呼吸を指摘されている方は一度当科もしくはかかりつけ医にご相談してください。

SAS患者の合併リスク（健常者と比較して）

高血圧	約2倍
狭心症・心筋梗塞	2～3倍
慢性心不全	約2倍
不整脈	2～4倍
脳卒中	約4倍
糖尿病	2～3倍

循環器疾患における睡眠呼吸障害の診断・治療のガイドライン 2010年

■ アレルギー性鼻炎の舌下免疫療法

アレルギー性鼻炎はスギなどが原因の花粉症と呼ばれる季節性のアレルギー性鼻炎やハウスダストやダニが原因の通年性のアレルギー性鼻炎があります。アレルギーの原因をアレルゲンと呼びます。

当科では治療として薬物治療（内服薬、点鼻薬）やレーザーなどの手術治療などをおこなっています。アレルゲン免疫療法も以前から行われている治療です。根本的な体質改善が期待される治療であり長期に渡って症状を抑えたり、症状を和らげたりすることが期待されます。

従来のアレルゲン免疫療法は注射剤であり皮下免疫療法と呼ばれています。効果が期待できる反面、注射による痛みや、頻回の通院が必要なことや、副作用による強いアレルギー症状などを来す場合があるため多くの患者に行われている治療ではありませんでした。

従来の注射薬に代わり口の中（舌の裏側）に薬液を滴下したり、錠剤を置いたりする舌下免疫療法が行われるようになってきています。注射による痛みはなく、副作用による強いアレルギー症状は皮下免疫療法より少ないといわれています。ただし決して強いアレルギー症状が出現しないわけではなく当院は緊急時に対応する病院になっています。

当科ではスギ花粉とダニの舌下免疫療法をおこなっています。従来の薬物療法などをおこなっても効果があまりない方、薬による眠気などの副作用が強く出る方などが治療の適応になります。スギ花粉やダニによるアレルギー性鼻炎に苦しんでいる方はご相談ください。



ナビゲーションシステム

■ 鼻副鼻腔手術

鼻副鼻腔疾患の手術として以前から内視鏡（腹腔鏡や胸腔鏡などと同じような内視鏡）を用いた手術治療をおこなっています。最近ではナビゲーションシステムを併用した内視鏡手術も行っています。鼻副鼻腔は脳や目と隣接しており、脳や目の手術合併症が問題になります。ナビゲーションシステムの併用により手術範囲の拡大や合併症の予防が期待されます。

■ 頭頸部癌

【鼻副鼻腔、舌などの口腔、咽頭、
喉頭、甲状腺、唾液腺など】

頭頸部領域の癌治療により音声、呼吸、嚥下、顔貌などへの影響が問題になります。

手術治療は現在も頭頸部癌治療の中心ですが、手術で切除される範囲によっては音声、呼吸、嚥下、顔貌などへの影響が強くなる場合があります。

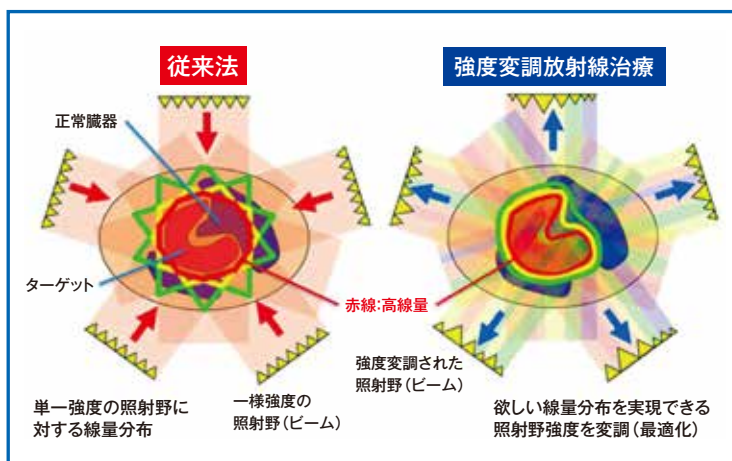
治療の進歩により、これらの機能温存や顔貌変化を少しでも抑えるための手術も行われています。また切除の必要のない放射線治療も積極的に行われています。しかし放射線治療の合併症に唾液腺障害があります。唾液腺障害による口の中の乾燥は治療後に訴える苦痛の中で最も多い症状の一つです。

当院では2014年より導入された強度変調放射線治療（IMRT）は正常組織への放射線照射量を減らすことで合併症の軽減が期待されます。

頭頸部癌においても正常唾液腺への照射を減らすことが可能になり、唾液腺障害による口の中の乾燥軽減にも効果が期待されています。



頸部超音波を用いた細胞診の様子



京都大学医学部附属病院 放射線治療科

第7回 地域連携講演会および意見交換会のご案内

地域医療支援病院として、今後も地域連携を密にし、より良い連携を築き発展させるため、2月17日(土)に 岐阜大学大学院 医学系研究科 病態制御学講座 泌尿器科分野 教授 出口 隆先生 をお招きして「第7回地域連携講演会および意見交換会」を開催します。皆様是非ご参加ください。

日時 平成30年2月17日(土)

受付 午後3時30分より
講演 午後4時より午後5時
意見交換会 午後5時15分より

一般講演

高山赤十字病院 地域医療連携の現状

■ 高山赤十字病院 病院長 棚橋 忍

会場 ひだホテルプラザ



特別講演

前立腺がん検診と病診連携

— 岐阜県での現状 —

■ 岐阜大学大学院 医学系研究科 病態制御学講座
泌尿器科分野 教授 出口 隆 先生

ご参加のお申し込み、その他ご不明な点等ございましたら、高山赤十字病院 地域連携課
0577-35-1880(直通) までお問い合わせください。

退任のご挨拶



内科医師 室賀 千英子

高山で、医療に携わらせていただき約16年となりました。また一昨年春からは高山赤十字病院で勤務をさせていただきました。この16年をふりかえりますと、勤務する医療機関を超えて、この地域の医療機関や、看護・介護・福祉の事業所の方々、多くの志高く・飛騨を愛おしく思う方々と共に、患者さんの大切な人生やご家族をお支えすることに、携わらせて頂けました。皆さんとのご縁や学びは私にとり、この上ない宝となりました。ご縁を頂きました全ての方に心より感謝申し上げます。もっともとながく皆さんと一緒に汗をかいていきたかったのですが、この度、地元の長野に帰り研鑽を積んでいくことになりました。いつか皆さんにご恩返しができることを祈り、また今後もこの地域が、ますます利他の精神や愛和の心に満たされていきますことをお祈り申し上げます。真にありがとうございました。

退任医師

内科医師 室賀 千英子 12月31日付

麻酔科医師 大沼 隆史 1月31日付



日本赤十字社

高山赤十字病院
地域連携課

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

〒506-8550 岐阜県高山市天満町3丁目11番地
TEL: 0577-35-1880 FAX: 0577-32-1165
メールアドレス byoshin@takayama.jrc.or.jp
ホームページ <http://www.takayama.jrc.or.jp/>